

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593393

研究課題名(和文) Maternal Confidenceを育成する看護介入プログラムの開発

研究課題名(英文) Nursing intervention program to train Maternal Confidence of mothers who suffer from infant

研究代表者

岩崎 順子 (Iwasaki, Junko)

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：90584326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、乳児を抱える母親のMaternal Confidenceを育成する看護介入プログラムの開発・評価を行うことである。Maternal Confidenceの各局面に関する看護介入プログラムを作成、実施し、質問紙により評価した。結果、妊娠末期5名、出産後1ヶ月7名の参加がみられた。妊娠末期におけるMaternal Confidenceの合計平均点は98.8点(獲得得点の割合61.8%)と低く、出産後1ヶ月では合計平均点は116.9点(獲得得点の割合73.1%)と上昇がみられた。参加観察の結果と合わせて看護介入プログラムの効果が示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to carry out the development and evaluation of nursing intervention program to train Maternal Confidence of mothers who suffer from infant..Create a nursing intervention program for each aspect of Maternal Confidence, was carried out, it was evaluated by questionnaire. The result, it was participation of late pregnancy five and five birth one month after seven. The total average point of Maternal Confidence in late pregnancy was low 98.8 points (61.8% percentage).The total average points in one month after childbirth was increased to 116.9 points (73.1% percentage). Effect of nursing intervention program has been shown.

研究分野：母性・女性看護学

キーワード：Maternal Confidence 看護介入

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

社会的状況：現代社会は、少子高齢化へと向かっており、家族や地域における育児機能は低下し、身近なサポートが少なく、子育て中の母親は深刻な課題を抱えている。育児で苛々することが多い母親はこの約 20 年間に 1 割から 3 割に増加、約 2 割が「子どもの育て方について自信がもてない」と回答している。2008 年度の児童虐待相談件数は統計開始の 2002 年と比較すると 40 倍に増加しており、厚生労働省の平成 20 年度の統計では 64 例 67 人の児童が虐待死しているとの報告がなされている。

Maternal Confidence と看護介入に関する先行研究：妊娠・出産・育児に関する研究は、従来、母性性や母性意識という母親に焦点を当てた研究が蓄積されてきたが、近年 Maternal Confidence が母親となる過程に深く関与しているとして注目されている。Maternal Confidence は、母親になる過程は学習や経験により導かれるものとして注目しており、Self-Efficacy の理論や Rubin の理論から様々に定義づけられており、母親になることが、先天的な要因ではなく、妊娠・出産・育児といった過程で獲得されるという理論的な根拠となっている。Maternal Confidence を育成する看護介入に関する先行研究として母子相互作用に注目し看護介入に焦点をあてた研究（ブラゼルトン新生児行動評価を用いた介入、母子相互作用に焦点をあてた介入等）が報告されている。

2. 研究の目的

本研究では、乳児を抱える母親の Maternal Confidence を育成する看護介入プログラムの開発を目的とする。また、教育プログラムを実施し、プログラムに対しての評価及び効果について明らかにすることを目標とする。

3. 研究の方法

(1) 研究の枠組み

Maternal Confidence を育成する看護介入プログラム：Maternal Confidence を育成する看護介入プログラムは、妊娠末期および出産後 1 ヶ月の 2 時点での実施とし、各時期において各局面 [子どもの健康の保持・増進][子どもとの生活に関する行動][育児に関するマネージメント][子どもの理解に関する感受性][子どもとの生活に関する知識]に関する看護介入プログラムを作成した。

表 1 Maternal Confidence を育成する看護介入プログラム

領域	教育内容	
	妊娠末期	出産後1ヵ月
Maternal Confidence	1. 出産・育児にむけて 1) 出産・育児に向けての思い 2) 妊娠・出産・育児の体験について	1. 妊娠・出産・育児についての振り返り 1) 妊娠・出産・育児の自分自身の体験 2) 妊娠・出産・育児の体験は意味づけ
【子どもの健康の保持・増進】 【子どもとの生活に関する行動】 【子どもとの生活に関する知識】	1. 子どもの成長に関する理解 1) 胎児期からの成長・発達 2) 新生児期の成長・発達 3) 母親の胎内環境における発育 2. 新生児の理解 1) 新生児の特徴 2) 子ども健康に関する気付き事項 3) 新生児の抱き方・飲ませ方・おむつ交換 3. 子どもの健康を育むために ・声かけタッチング ・自分なりの育児方法の習得	1. 子どもの健康に関する気がかりについて 1) 子ども健康に関する気がかりの表出 2) 出産後1か月の母親が抱える気がかり 3) 子ども健康に関する気がかり事項の保障 2. 子ども健康について 1) 日々の子どもの成長 2) 生後1-4か月の子どもの成長・発達 3. 子どもの健康を育むために ・気がかり事項は相談しながら解決していく ・日々の子どもの成長を楽しむ
【子どもの理解に関する感受性】	1. 新生児の五感 1) 視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚 2) 新生児のこころの発達 ・外的刺激、快・不快の感情の理解 3) 新生児の泣き方 ・泣きの種類、泣くことの意味 ・泣きかたの個性、泣き方を見分ける目安 2. 子ども理解にむけて ・子どもを理解していくことの重要性 ・子どもの個性の理解 ・うまくいった時の体験の活用	1. わが子の様子 1) 子どもの泣きの様子、泣きへの対応 2. 生後1か月の子どもの欲求について 3. 生後1-4か月の子どもの様子 4. 子どもの理解 ・出産後1か月までの期間での子どもの理解 ・母親は子どもにとっての一番の理解者 5. 子どもの泣きに対する応答方法 6. 子どもの理解を深めるための方法
【育児に関するマネージメント】	1. 子どもがいる1日の生活のイメージ 2. 育児と生活 ・育児と生活の調整 ・子どもがいる生活に向けた準備 ・家族での役割分担 ・生活の調整の工夫 ・うまくいった体験の活用 3. 自分自身の心身を大切にすること ・Rest ・Recreation ・Relax	1. 育児がある生活の変化 2. 育児と生活の調整 ・育児中心に工夫しながら調整してきている ・柔軟に調整する力が高まってきている ・今後も自信をもって望んでいくこと 3. 育児と生活の工夫 ・具体的な工夫の方法 4. 自分自身の心身を大切にすること 1) 育児期間中での母親のこころの状態 2) 育児とお母さんのこころ 3) Rest、Recreation、Relax 4) リラックス法：入浴

4. 研究成果

Maternal Confidence を育成する看護介入プログラムは、妊娠末期および出産後 1 ヶ月において各 2 回実施を行い、合計、妊娠末期 5 名、出産後 1 ヶ月 7 名の参加がみられた。以下に研究成果を示す。

(1) Maternal Confidence を育成する看護介入の結果

Maternal Confidence 質問紙の結果

Maternal Confidence の各局面の結果は以下であった。

表1 Maternal Confidence の各局面の質問紙結果

各局面	平均得点 (獲得得点の割合%)	
	妊娠期	出産後1ヵ月
【生活知識】	13.8 (49.2)	19.4 (69.3)
【生活行動】	18.2 (65.0)	23.9 (85.2)
【感受性】	16.8 (60.0)	19.4 (69.3)
【マネージメント】	18.0 (64.2)	19.6 (70.0)
【健康】	19.6 (70.0)	20.2 (72.2)
【M C】	12.4 (62.0)	14.4 (72.1)
合計	98.8 (61.8)	116.9 (73.1)

Maternal Confidence の合計平均点は、妊娠末期 98.8 点 (獲得得点の割合は 61.8%) と低く、出産後 1 ヶ月では 116.9 点 (獲得得点の割合は 73.1%) と上昇がみられた。各局面について妊娠末期では【子どもの健康の保持・増進】が、出産後 1 ヶ月では【子どもとの生活に関する行動】が最も高く、【子どもとの生活に関する知識】は両時期において低い結果であった。

質問紙の自由記載の結果

看護介入後の対象者の感想を以下に示す。

表2 Maternal Confidence 看護介入後の対象者の感想 (自由記載より)

大カテゴリ	中カテゴリ
不安の解決	現在までの不安の解決
	現在抱えている不安の解決 質問しやすい雰囲気
妊娠・出産・育児の振り返り	これまでの妊娠・出産・育児の振り返り
育児の見通し	家族と協力した育児
	無理せず楽しんでいく育児 育児期のイメージ形成
育児知識の獲得	児の発育に関する知識の習得 役立つ商法の取得
育児技術の獲得	育児技術(おむつ交換)等の実施・体験による技術の獲得 新たな育児技術の生活への取り入れ
児の理解の深まり	児の理解に関する学び
	児の理解の深まり
他者との体験の共有	同じ体験の対象者の語りによる安心感 他者との体験の共有による自信の獲得
母児の交流の場	母親の交流の場
	子ども同士の交流の場
楽しく・有意義な体験	楽しい体験
	有意義な体験

対象者は、看護介入を通して[現在の不安を解決]し、[育児知識・技術の獲得][児の理解の深まり]を[他者との体験の共有]を通して体験することができていた。

参加観察法による Maternal Confidence を育成する看護介入結果

各看護介入場面において、対象者は、それぞれ話を聞きながら聞いている姿がみられた。育児技術の体験時は、熱心に取り組む姿がみられ、対象者同士の交流を図りながら実施ができていた。

(2) Maternal Confidence を育成する看護介入プログラム

上記、Maternal Confidence を育成する看護介入結果および Case の分析より看護介入の効果が明らかとなった。ここでは、[妊娠期における Maternal Confidence を育成する看護介入プログラム]について述べる。

[妊娠期における Maternal Confidence] の特徴

妊娠期における Maternal Confidence の質問紙結果および、各ケースの分析より、妊娠期の Maternal Confidence として以下に示す特徴が明らかとなった。

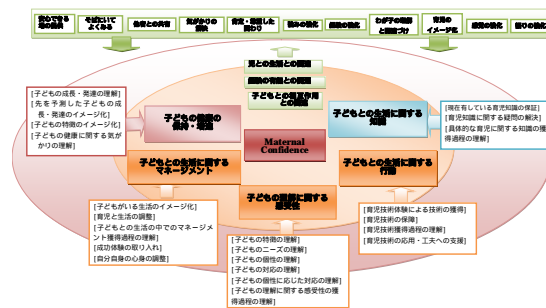
- 1.低い Maternal Confidence
- 2.自己の肯定的捉えの影響
- 3.妊娠継続に伴い高まる【子どもの健康の保持・増進】の側面
- 4.具体的な【子どもとの生活に関する知識】の Maternal Confidence の低さ
- 5.経験の有無との関連
- 6.子どもとの相互作用との関連
- 7.対象者の気がかり事項の解決による高まり
- 8.集団学級による効果の高まり

[妊娠期における Maternal Confidence の看護介入]プログラム

Maternal Confidence の看護介入結果および妊娠期における Maternal Confidence の特徴をふまえて、妊娠期における Maternal Confidence の看護介入として、(1)Maternal Confidence の 5 つの局面を支える看護介入および Maternal Confidence を育成する 11

の看護介入（図1）が導き出された。

図1 Maternal Confidence 看護介入



以下に各局面での看護介入の項目・内容について（表3～7）また、Maternal Confidenceを育成する11の看護介入について表8に示す。

表3【子どもの健康の保持・増進】の局面を支える看護介入

局面	項目	内容
【子どもの健康の保持・増進】	子どもの成長・発達の理解	1) 胎児期の子どもの成長・発達 の理解・想起 2) 新生児期からの子どもの成長・ 発達の理解
	先を予測した子どもの成長・ 発達のイメージ化	1) 子どもの成長・発達のイメージ 化の促進 2) 子どもの成長・発育への気づ きを通じたMaternal Confidenceの強化
	子どもの特徴 のイメージ化	1) 新生児の身体的特徴のイメ ージ化 2) 新生児のこころの発達のイ メージ化
	子どもの健康 に関する気づかりの理解	1) 子どもの健康に関する気づか りの理解 2) 子どもの健康に関する気づか りの理解を通じたMaternal Confidenceの強化

表4【子どもとの生活に関する知識】の局面を支える看護介入

局面	項目	内容
【子どもとの生活に関する知識】	現在有している育児知識の保 証	1) 育児知識獲得の頑張りへの肯 定のフィードバック 2) 母親が理解している育児知識 の保証を通じた Maternal Confidenceの強化
	育児知識に関 する疑問の解決	1) 育児知識に関する疑問の確認 2) 育児に関する疑問点の解決に よるMaternal Confidenceの強 化
	具体的な育児 に関する知識の 獲得過程の理解	1) 子どもとの生活の中での疑問 出現の理解 2) 子どもとの生活の中での知識 獲得の理解 3) 育児に関する疑問への解決法 の理解

表5【子どもとの生活に関する行動】の局面を支える看護介入

局面	項目	内容
【子どもとの生活に関する行動】	育児技術体験 による技術の獲 得	1) 育児技術（新生児の抱き方・ 飲ませ方・おむつ交換・衣服の 着脱の技術）の提示 2) 育児技術（新生児の抱き方・ 飲ませ方・おむつ交換・衣服の 着脱の技術）体験
	育児技術の保 障	1) 母親の育児技術体験の見守り 2) 母親の育児技術が正しい方法 で実施できていることへの承認
	育児技術獲得 過程の理解	1) 育児技術体験を通じた技術獲 得過程の理解の促進を通じた Maternal Confidenceの強化
	育児技術の応 用・工夫への支 援	1) 一つの体験より育児期間中 に想定される場面に活用できる 方法の提案 2) 新生児の特徴を理解した育 児技術が様々な育児に適用でき ることの理解を通じたMaternal Confidenceの強化

表6【子どもの理解に関する感受性】の局面を支える看護介入

局面	項目	内容
【子どもの理解に関する感受性】	子どもの特徴 の理解	1) 新生児の五感に関する理解 2) 新生児の心の発達に関する理 解 3) 新生児の泣き方の理解
	子どものニ ーズの理解	1) 新生児のニーズの理解
	子どもの個性 の理解	1) 子どもの特徴、泣き方の個人 差の理解
	子どもの対応 の理解	1) 子どもの五感の理解を通じた 対応への理解 2) 子どもの泣きへの対応の理解
	子どもの個性 に応じた対応の 理解	1) 子どもの個性に応じた対応の 促進 2) わが子の合図やリズムの特徴 をつかむことの促し
子どもの理解 に関する感受性 の獲得過程の理 解	1) 子どもとの生活の中での子 どもの理解に関する感受性獲得の 促進を通じた Maternal Confidenceの強化	

表7【子どもとの生活に関するマネージメント】の局面を支える看護介入

局面	項目	内容
【子どもとの生活に関するマネージメント】	子どもがいる 生活のイメ ージ化	1) 子どもがいる1日の生活につ いての語り 2) 子どもがいる1日の具体的例 についての提示
	育児と生活の 調整	1) 育児と生活の工夫 2) 子どもがいる生活に向けた準 備 3) 家族での役割調整
	子どもとの生 活の中でのマ ネージメント獲 得過程の理解	1) 子どもとの生活へのとまどい 2) 子どもとの生活の中で獲得さ れていくマネージメントの理解 を通じたMaternal Confidence の強化
	成功体験の取 り入れ	1) 育児の中での工夫してきたこ と、成功体験の取り入れによる Maternal Confidenceの強化
	自分自身の心 身の調整	1) 母親の心身の健康の重要性 2) 3つのR ・ Rest ・ Recreation ・ Relax 3) 自分の心身を大切にした育児 への取り組み

表8 Maternal Confidence を育成する  
11の看護介入

看護介入	項目
[安心できる場の提供]	<少人数制> <自由に表現できる場> <リラックスできる環境>
[そばにいてよくみる]	<適切な観察とアセスメント能力> <気にかける> <見守り> <支える>
[他者との共有]	<集団での学級> <他者の意見の傾聴> <同じ悩みへの共感> <気づきの支援> <柔軟性の育成> <新たな気づき>
[気がかりの解決]	<不安・疑問の解決>
[肯定・尊重した関わり]	<共感する> <寄り添う> <認める> <保証する> <肯定的フィードバック> <本人の意向・価値観の尊重> <思いの理解>
[強みの強化]	<強みの発見> <ほめる> <主観的な捉えの肯定的意味づけ> <気づきの促進>
[経験の強化]	<妊娠期の振り返り> <体験で獲得したことの意識づけ> <経験の意味づけ> <先を予測した経験へのリンク>
[育児のイメージ化]	<具体的な児との生活の関連付け> <先の見通し> <媒体の活用>
[わが子の理解と関連づけ]	<子どもの感受性とのリンク>
[語りの強化]	<自己の気づきの促進> <できそうという感覚の発見>
[感覚の強化]	<成長のプロセスの中での捉え> <自分の力を信じる> <子どもの力を信じる> <自身の成長の気づき>

(3) 今後への示唆

今後は、開発した「乳児を抱える母親の Maternal Confidence を育成する看護介入プログラム」を臨床の場において、具体化・洗練化し、介入効果を評価していくことが必要である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 0件)  
投稿準備中

[学会発表](計 0件)  
発表準備中

[図書](計 0件)

[産業財産権](計 0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩崎 順子 (Iwasaki Junko )  
高知県立大学・看護学部・助教  
研究者番号：90584326

(2) 研究分担者

野嶋 佐由美 (Nojima Sayumi )  
高知県立大学・看護学部・教授  
研究者番号：00172792